

「栄養相談専門士が栄養治療効果を高めるためのシステム作り」

演者はこれまで大学での基礎研究ならびに市中病院での臨床経験を通じて、生活習慣病、特に心臓病、糖尿病、肥満症に対する食事療法の重要性を認識し続けてきた。昨年、自身のクリニックを開院し、より具体的な患者への栄養指導を達成する事を目的に栄養士を採用し（開院1年目時点6名、うち常勤3名）、様々な取り組みを開始してきた。

今回のシンポジウムでは栄養治療効果を高めるため当院で現在実践している診療システムについて紹介したい。

1. 患者病態の理解のための一般診療への参加

当院では医師は患者の診察に100%徹するために、電子カルテ記載は医師の管理の元、管理栄養士が主に記載している（シュライバー）。管理栄養士はシュライバー業務を担当する事により、病歴の聴取、患者背景を初診時より把握し、検査オーダーや投薬、他院とのやりとりも医師の指示により自ら入力する事により幅広い視野で患者病態をオンタイムで把握し栄養指導に関連させる事が可能となる。

2. Integrative Healthcare の実践

また当院では一般内科診療に加え、専門家による漢方外来、鍼灸療法、ヨーガ療法、アロマセラピーなどリハビリテーション科での診療を展開し、各療法に栄養士が積極的に関与する事により様々な Integrative Healthcare（補完的健康アプローチ）の実践を目指している。セッションでは特に運動療法士と共に管理栄養士が実施する心臓リハビリテーションプログラムについて紹介したい。

3. iPad を利用したセルフアセスメントシステムの導入

以上述べたアプローチにより、クリニックでは栄養士は患者臨床病態の把握に加えて幅広い生活指導を行う事が出来るようになりつつある。一方、実際の栄養指導では栄養治療効果に加えて、特に経営上の観点からも迅速かつ効果的で、継続可能な栄養指導を実施する事が必要とされる。

そこで当院では患者に受け入れやすい栄養指導を実践するために、栄養指導の必要性の有る患者は全員、栄養指導前に iPad を用いてセルフアセスメントで普段の食事運動習慣を回答するシステムを導入している。同システムの導入により、指導前に患者の生活習慣の中で改善が必要な項目を把握し経時的なフォローが可能となるため、迅速かつ継続した指導に役立てる事が出来る。

また、同システムにより明らかとなる患者の改善項目には昨年導入された機能性表示サプリメントなども効率よく利用しやすくなり、ひいては抗加齢医学的なアプローチも可能となるため栄養相談専門士の益々の活躍が期待される。